

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	異分野連携による教育実践研究—工芸教育における微細藻類をモチーフとした教育プログラムの開発—
------	--

研究代表者

氏名	古瀬 政弘	所属	芸術・スポーツ科学系 美術講座	職名	准教授
----	-------	----	-----------------	----	-----

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究では、異分野連携教育研究として本学生命科学分野 真山茂樹教授の珪藻に関する授業や資料提供の協力をいただきながら、珪藻をモチーフとした金工制作の制作プロセスに着目し、そのプロセスにある様々な「変化」を教育的視点から辿り考察していった。また、国立科学博物館筑波実験植物園「植物アート展」参加及び展示することで生命科学分野と美術分野の視点の相違から今後の異分野連携教育の可能性を探ってみた。

珪藻は長い歴史の中で分裂成長を繰り返し、洗練された多様なフォルムや胞紋など「ミクロの宝庫」として現代でも私たちに神秘性のある造形的魅力を与え続けている。その中空である構造美や多様な胞紋による装飾性などは、鍛金、彫金を主体とした金属工芸のモチーフとしては様々な展開が期待できる可能性を秘めている。今回の展示では植物アート展とその研究の一環を兼ねて、金工研究室所属の教育系、教養系学部2年生、3年生による作品展示を行なった。2年生においては手引き糸鋸による透かし彫り技法を主体とし、珪藻をモチーフとして再構成された照明器具を出品展示した。3年生は鍛金・彫金などの金属工芸の基礎技法をベースに様々な角度から珪藻をモチーフとして作品化を試みている。いずれもまずは珪藻の生体や構造の観察から始まり、その後、構想段階でスケッチや資料をもとに、大まかなデザインを検討した。さらに素材や技法を駆使しながら完成形へと導いていった。

金属素材を金鋸、鑿、糸鋸、鑿など手道具を介在して制作していくプロセスは、構想段階にある個のイメージをくっきりと再現する手段としてだけでなく、これらと密接に関わり合いをもつ故にそこから生じる状況に応じた変化が新たなものを生み出す原動力(創造)へと繋がっているように感じられた。これは出来上がった作品は必ずしもイメージ(デザイン)したものを正確に写し出したものではなく、イメージを少しずつ具現化させていく過程で生じる諸問題(素材の特性、技法や接合処理、空間性など)を状況に応じて創意工夫させる点に、工芸制作の創造性が存在する。また、珪藻の構造美について、創造という視点から手を加えていくことは自然の造形美を損なう印象として受け入れられがちである。しかし、珪藻の造形美は勿論だが、今回の作品制作にあたり個の心象的衝動から美的関わり合いが生じている点が、展示作品や制作者のコメントより伺えるとともに興味深い点でもあった。自然科学分野からは珪藻という対象物について客観性のある学術的視点から関わっていくのに対し、工芸の分野においては、自然の造形物を忠実に再現する写実性の追求にとどまるのではなく、個々の心象的衝動から始まり、モチーフの再編や様式化が行なわれることで美的本質を伝えようとしている点に趣があるのではないかと推察された。

今回の国立科学博物館で行われた「植物アート展」において、生命科学分野と美術分野というそれぞれ異なった分野が微細藻類という自然界の生物を共有展示していった中での様々な展開や考察を学会論文としてまとめていく予定である。さらに、継続連携していき、今後の学校教育の現場や博物館、美術館などの教育普及活動の進展に繋がっていくことを期待したい。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]
**※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。**